

議 事 録

件 名	第 3 0 回高齢者の安全対策委員会
日 時	令和 5 年 4 月 21 日（金）14：00～15：30
場 所	久留米市公社会館 2 階会議室
出席者	委 員 濱本委員長、山下副委員長、内田委員、漆原委員、桑島委員、稲田委員、羽江委員、高尾委員、松岡委員、権藤委員、藤原委員、藤木委員、関委員
	事務局 古賀課長、植松補佐、野口補佐、鹿毛補佐、上野、深村、吉開、坂本（長寿支援課）、高口補佐（介護保険課）、豊福主幹、岡補佐（安全安心推進課）
欠 席 者	なし
傍 聴 者	なし
次 第	1. 開会 2. 副委員長選出 3. 報告事項 令和 5 年度の主なスケジュールについて 4. 協議事項 （１）2022(令和 4) 年度実績及び 2023(令和 5) 年度方針（案）について （２）3 回目の認証取得に向けた本審査について 5. その他 6. 閉会
質 疑	<u>1. 開会</u> <u>2. 副委員長選出</u> 山下委員が副委員長に選出された。 <u>3. 報告事項（令和 5 年度の主なスケジュールについて）</u> （質問・意見無し） <u>4. 協議事項</u> （１）2022(令和 4) 年度実績及び 2023(令和 5) 年度方針（案）について ＜ 委 員 ＞ 健康推進課が取り組んでいるウォーキングの実績について。 未確定だが 4 4 校区で実施されており、約 6000 人が参加しており、資料の数字より多くなる。 ＜ 委 員 長 ＞ 初めての方もいるので、転倒予防については、「普及啓発」と「転ばない体を作り」という 2 つの観点から実施している。 普及啓発では、パンフレットなどで、転びやすい環境はどのようなものか、転ばないためにフレイル予防をしていきたいと思いますと呼びかけている。 「転ばない体を作る」では実践。にこにこステップ運動や先ほど説明があった体力づくりとして取り組んでいるウォーキングなどがある。

議 事 録

< 委員長 >	(虐待防止について) 成果指標がなかなか難しいのが課題になっている。相談件数を取り上げているが、単純に相談件数が減ったから成果かという、そうではない。虐待に関する周知をすればするほど、件数は増えていく。減ったからいいというものではないのでどう解釈するか難しい。ただ、こういうことが虐待につながるという周知はやっていく必要がある。そういった意味で、研修会や学習会などを継続的に続けていっている状況。 また、虐待が疑われるケースは相談につながりやすいように、ネットワークを作っているが、ネットワークが成果につながっているかが、課題になっている。 包括支援センターに虐待相談があっていると思う。10年くらい虐待の取り組みをやっているが、一般方や高齢者のご家族が、虐待を一定理解していると思うか、まだまだなのか、肌感覚でいいので、教えていただきたい。
< 委員 >	高齢者虐待の通報については、介護事業所やケアマネジャーから連絡があることが件数としては多い。実際に入ってみると、虐待をしていた家族の方は、虐待をしていたとう認識はない。虐待につながる要因として多いのは、認知症の症状がある親のお世話をするなかで、ストレスがたまってしまって、虐待のような行動になってしまっていることが多いのが現状。
< 委員長 >	認知症の理解を深めることで、虐待の予防対策の一つになるのかなと思う。 それで認知症の講習もあげている。事業所として何か虐待予防についてあるか。
< 委員 >	例えば、入居施設については常にみているのが職員だから、職員向けの虐待防止の啓発が重要になると思う。 訪問系や通所に関しては自宅でみている方が別にいるので、その方に対しての啓発が必要になる。 一般の職員からすれば、これは虐待なのか、転んでけがをしているのか、その辺の区別がつかないので、まずケアマネジャーに家庭事情も含めて相談する。そのケアマネジャーが通報することが大半という印象。不自然なあざがあったり、ご飯をがつつ食べているとご飯をもらってなかったのかなと気づくこともある。 包括と協働し、いろいろと検討した結果、各事業所に虐待の芽チェックリスト、早期に発見しましょうリストを作り、事業者協議会として事業所に研修し配布した。事業所に貼っておいてと啓発した。
< 委員長 >	事業所の方で工夫していることも、久留米市で情報収集されて何かに反映できるといい。

議 事 録

< 事 務 局 >	反映できる分は反映していく。
< 委 員 長 >	社会福祉協議会からは何か情報はあるか。
< 委 員 >	資料の中で、ふれあいの会が出てくるが、高齢者のみ世帯、高齢者単独の世帯の見守りなので、玄関先までは入るが、家の中までは入れないという状況がある。この活動の中で虐待を発見するというは、難しいのかなというのが正直なところ。 校区社協やふれあいの会ではなく、社会福祉協議会で個別支援とかもはじめている。ごみ屋敷のようになっている家に訪問したケースでは、６５歳の方がいると思ったら、家の奥で９０歳お母さんも一緒に生活していたことがあった。これはネグレクトではないのかとか、個別ケースでは見つかっている。個別支援のルートで虐待のケースがいくつか出てきている状況。 (２) ３回目の認証取得に向けた本審査について
< 委 員 >	資料５の６６ページ、在宅介護における困難な点としてあげられている、上から３つはまさにその通り。 私は夫の介護をやっていた。にこにこ会にお世話になりながら、介護を行い医療機関と介護施設などのお世話にもなったが、私がストレスや不安を解消できたのは、家族の会のメンバーにお世話になったから。当時は自宅で週に１回カフェをひらき皆さんが集まっていた。夫が在宅していることもあれば、夫がいないこともあった。ケアしてもらったという経験を持つものとして、人とのつながりをもつことで、ストレスを発散できたり、介護のやり方などを学ぶことができた。 この前のにこにこ会で、すぐにはできないだろうが、校区に一つ認知症カフェがあるといいという話がでた。にこにこ会は、月に１回社会福祉協議会で定例会、毎週金曜日にカフェという形でおしゃべり会をしているが遠い。例えば、草野や田主丸の方が歩きで社会福祉協議会まで来るのは非常に難しい。自由に出入りできるようなカフェが、校区にあるといい。 すぐには難しいと思うが、敷居が低くて、愚痴がこぼせるような。「いかんことをやってしまった」、「そんな時はこうしたらいい」と話せるような。私はお世話になったおかげで、繋がりも持てたし、介護が苦にならなかったといっても過言ではない。何とか少しでも社会介護で、しかも金がかかると利用しにくいので安価で。そういう取り組みを進めて欲しい。 また、最近ニュースになった、事故にあった時に出る保険は今もあるのか。

議 事 録

< 事 務 局 >	踏切での事故があった時の保険になると思う。以前は民間の保険が無かったが、今は民間の保険があるので市としてやっていない。
< 委 員 >	久留米はこれをやっている、特化してやっているというものがあるといい。どこかのページにも書いてあったが、認知度が低いとなかなか広まらない。 また、この前の丸い図の中の真ん中に人権と入れてほしい。久留米は人権を大切にすまちだから住みやすいと言えるように。お金をかけないで、そういうまちの雰囲気ができたらと思う。その手始めとして、校区で愚痴をこぼせる場所があればいい。そういう具体的な取り組みをしていかないとなかなか進まないのかなと思う
< 委 員 長 >	最初に言われた、認知症カフェですね。身近にあった方が有効ですし、指標ではないですが、校区に一つあったらいいなと個人的には思う。だいぶ以前に比べたら増えてきたと思うがいかがか。
< 事 務 局 >	認知症カフェはだいぶ増えてきている状況だ。カフェを開設しようとしている方と、開設後5年の間の支援をする補助制度を創設した。あわせて、今から開設しようと思っている方が相談できる仕組みも作り、開設講座というかたちで支援を行っている。気軽に立ち寄れる場を市が作るのではなく、みなさまのほうで自主的に作ったものを行政として応援する形で支援していきたいと考えている。
< 委 員 >	認知症に取り組んでいるグループの総会が盛り上がっている様子がニュースで取り上げられていた。久留米も追いつけという感じで見ていた。私個人としては、認知症と名前を付けなくていいので、高齢者だけでなく子どもも一緒に、誰でも足を運べる場所があるといいと思う。
< 委 員 長 >	お話があったように、共生社会の実現というところがテーマになってくる。だから、認知症だけでなく、子どもや子育て世代なども通うことができ、いろいろな情報も得られるというのも一つの在り方だと思う。 今後、認知症カフェの取り組みをさらに進めると、共生社会の中でいろんな方がそこで利用できる取り組み、そういった方向を向いて行っていけたらと思う。

議 事 録

< 委員長 >	資料 7 のスライドナンバー 2 2 転倒予防や溺死・溺水に関する普及啓発について。 2 回目の認証の時に、溺死・溺水とかお風呂で高齢者の方が亡くなるケースが多くあるということがあり、溺死・溺水を加えた。ただ、溺死・溺水に関して外国の方は、入浴はシャワーだけで浴槽に入るという概念がないため、「なぜお風呂で溺死・溺水するのか」という考えを持っている。だから、日本では入浴時に浴槽に入るので溺死・溺水が起こるのだということを伝えるため、あえてここでは浴槽の写真を入れているという理解でいいか。
< 事務局 >	そうだ。
< 委員長 >	また、事前審査の指摘の中で、転倒予防に対するソフト面のいろんな取り組みは伝わったので、住宅改修などハード面の取り組みについてももしっかり紹介してはどうかとアドバイスをもらっているので、あえて手すりを付けた浴槽の写真を入れている。 資料 5 の 6 6 ページ、図表 9 9 高齢者の転倒に対する不安感について。 認証前の 2 0 1 1 年と現在 2 0 2 2 年を比較すると、認証前よりも現在の方が不安感をもっている方が多いことになっている。コロナ禍前の第 2 回目の認証の時には若干減っていた。コロナ禍を経て、かなり不安感を持つ方が多くなっているのかなと思った。外出しないとか、人との接触を避ける対策だったので、転倒予防教室などの集まりにも出られない状況が続いていたことがアンケート結果に影響していると解釈している。また、今回認証を受けて、5 年後もう一度認証を受けるときにこの数値に注目したい。この 5 年間しっかり取り組みができれば、不安感は今よりも減っているのではないかな。 資料 5 の 6 7 ページ、図表 1 0 4 虐待行為に関する認識についても、正しく理解できていない人の数字が若干増えている状況だ。前回までは若干減っていた。これもコロナ禍で、なかなか人と会わない、接触する機会がないという状況が、虐待に対する意識にも少なからず影響したのではないかなと思っている。推測にすぎないので、継続的に数値を追っていきたい。 <u>5. その他</u> (質問・意見無し) <u>6. 閉会</u>